

磐城中正新報

發行日 毎月一日十五日
 郵税共 一部 金 拾 銭
 廣告料 普通欄十二字詰一行
 一回八十銭増場所指定
 同二十銭増
 印刷編輯 安 澤 榮 作
 發行所 磐城縣平町新報社
 磐城中正新報社

屢々問題となつた 總選舉の 期日起算は

解散の翌日から

衆議院議員選挙法第十八條
 第三項「衆議院解散の際總
 選舉は解散の日より三十日
 以内之を行ふ」の選舉期と
 以內に之を行ふ」の選舉期と
 日の規定は起算日を解散當
 日とするか解散の翌日にと
 るかについて内務省では翌
 日と云ふ解釋を下したが今
 回大審院から左の判例が示
 された

十八條第三項にも解散の
 日よりと規定する筈であ
 る
 衆議院解散せられたる場
 合における總選舉期日は
 解散の翌日より起算して
 之を定むるものとす
 今春の總選舉訴訟の大半は
 期日に關する明文はない
 期日に關する訴訟で今後の
 が七十八條の議員任期に
 ついて總選舉の期日より
 起算すと明示されてある
 點から推して解散の日を
 起算日とする意ならば、

平驛前目抜き場の場所

秋山時計店の開業

信用と技術が併行の

青年店主 秋山秀男君

常盤地方時計商中の老舗とは今回大谷時計店を辭し平
 して信用篤き平町三丁目大驛前通りに時計商に最も
 谷時計店の機械部主任とし縁のある時の記念となる本
 て多年同店に在りて技術と月十日賑々しく開店した同
 信用の厚かりし秋山秀男君は地方稀に見る模範青年

不況が祟つて

避暑地各濱の 貸間が安い

坂一ヶ月で愈々海水浴の季
 節が來るが本年は深刻なる
 不況が祟つて各濱の貸家賃
 間等は昨年より二三割安く
 疊一疊を一圓標準に最高一
 圓五十錢最低七八十錢位の
 田であるが、例年繁昌を極
 めてゐる小名濱、四倉等で
 は海水浴専用の貸家賃間は

中正放送

△吾無天下で飛ぶ鳥も落す
 勢の石城民政部會も内紛
 の極遂に同俱樂部の建物
 を競賣の悲運に會ふ戒む
 べきは幹部の専横
 △失意のドン低にある野黨
 政友の石城部會では俱樂部
 部新築の爲め寄附募集中
 の處不況を裏切つて豫定
 以上に達す前者と對照し
 てナント皮肉ではあるま
 いか
 △毎度の事だが公安に害あ
 る土地の試掘願を出して
 手数を掛ける小心得者が
 あるのは困つたものだ
 △急施町會の開會を餘儀な
 くされた半町當局少し頭
 の改造を要せざるか
 △濱口ライオン總裁消極よ
 り積極へ愈々宗行換への
 由換へるは換へざるに勝
 るも少し遅き憾みあり
 △縣下警察署長會議後極め
 て小範圍ではあるが署長

俳城潮聲

五月旬鈔

五月廿三日吟席南白銀萬袋店にて吟者は機柳
 閑月、何鳴、文狂、晚霞、白眠、撫山、秋月
 竹尾、萬袋、北窓、卒賓子、天仙、香雨、松
 堂、野壽司、半仙、長貴、竹陰、鶴步、二葉
 中納言

課題吟

端午

晋雪庵機柳宗匠選
 出吟三百四十句

竹はよく育つて伸ひて 端午哉
 かたふけて軒に菖蒲の 節句哉
 端午淋し女はかりの子をもちて
 潮風に 矢車高き 端午かな
 軸物の鐘を掛けて 端午かな
 △人 苦に昔く 菖蒲床しき端午かな
 △地 山の手に一戸離れて端午かな
 △天 ゆくりなく來し水郷の端午かな

風鈴

高く低く風鈴の鳴る夕へかな
 雨雲の垂れ風鈴の忙はし
 風鈴の折々鳴りて夜静かなり
 深まれる夜に風鈴の頻り鳴る
 風鈴や獨酌の夜の軽き酔
 △人 風鈴に寝返りうつて子の寝る
 △地 風鈴に灯さす人の語りあし
 △天 風鈴に流るゝ夜風惜しみ閉つ

夏の風

帆柱に乾くてゝらや夏の風
 草に散る筧の水や夏の風
 夏の風芭蕉大きくゆれてあり
 夏の風また吹きさらぬ思ひかな
 離れともなき欄干や夏の風
 △人 青葉山夏の風脚見ゆるかな

卯の花

卯の花のこぼるゝまゝや寺の縁
 雨を含む風に卯の花こぼれけり
 夕されや卯の花白く垣のひま
 降りそゞ雨に卯の花盛りかな
 月の夜の垣に明るし空木咲く

蝸牛

山の井や蝸牛の殖えし草の雨
 蝸牛や見て佇つ肩に竹雫
 でとむしの角を納めし微風かな
 摘み採す桑の葉裏や蝸牛
 朝雨や竹椽を這ふ蝸牛
 △人 蝸牛や古郷はなれぬ筒井筒
 △地 蝸牛や竹伸ひる日の雨の音
 △天 重たけに吹かるゝ草や蝸牛

加

家根草に端午の朝の風清し
 風鈴にちと風あらし夜なりけり
 踏む砂の輝き遠し夏の風
 卯の花に伝しき雨のつゞきけり
 軒垂うける盥やかたつむり

席上吟

微露臺

青微や常に親しむとものにて
 か、よへる町の灯遠き露臺哉
 夕つくや露臺に風の吹きたらす
 展けたる景を露臺に待たりけり
 白きもの闇の露臺に動く哉

加

風に飛ぶ葉卷の灰やバルコニー

閑月

竹尾

鶴步

北窓

卒賓子

竹陰

何鳴

半仙

何窓

秋月

萬袋

天葉

二葉

機柳

同同同

同同同

同同同

同同同

同同同

同同同

同同同

和歌

小川郷 松崎幽泉

——生活の環境を歌ふ——

○ちよみの父は再び来ませねど追憶の夏は又廻り來ぬ
 ○梓弓無き數に入りし人を戀ひつ過ぎ行く月日の早きを悲しむ
 ○幾年か憧憬れたりし峯の上に今日イみて山の香に酔ふ
 ○雨の窓に物思ひあれば停車場を出て行く汽笛の淋しさに響く
 ○六月の夜をしみじみと懐かしむれし友に會ふ心地にて

同 平岡樹月

○初夏の陽を浴びて集ひる兒童等と遊びたい程童心が湧く
 ○眞ッ白に野茨の匂ふ草の戸に泣いじやくり居る幼兒一人
 ○長々と金魚賣る聲聞ゆ頃シヨウウエンドーも夏の粧ひ
 ○雨雲の低迷したる黄昏に手許も小暗く桑刺り急ぐ
 ○俄雨水嵩増す程注げども釣する人は動くともせず

同 吉岡獨歩

——亡門下東谷てる子を憶ふ——

○栗の花黄なるを見れば去年の夏の彼の女のことかまざく浮かぶ
 ○初恋のそれにかも似てひたすらに我を戀ひたる彼の女なりしが
 ○時鳥哀れ彼の女の上もやと胸騒がせし夜さりもありき
 ○實梅熟るゝ頃なりしかな散歩をまなし得ぬ程に重りたりしは
 ○柿の花のツと落ちゆくそのこと彼の女の運命は日々非なりき

開業御披露

開業記念を兼御披露の爲め指示正確にして一生持てる最優秀なる時計を當分定價の一割引にておつとめ致します
 何卒御引立の程御願ひ致します

平驛前通り

秋山時計店

時計 計 貴金屬 眼鏡各種 時計其他修繕は丁寧親切期日正確料金低廉

氷水開業廣告

氷水を相始めました、本年は左の如く値下げを断行しましたから多少に不拘御用命御引立の程を願ひ上げます

水	四錢	水あつき	十錢
同いちご	八錢	同しら玉	十五錢
同れもん	八錢	同ラムネ	十五錢
同ぶどう	八錢	同ラムネ	十五錢
アイスクリーム	八錢	同ラムネ	十五錢
あぶきアイス	八錢	同ラムネ	十五錢
ミルクセイキ	八錢	同ラムネ	十五錢
水セイキ	八錢	同ラムネ	十五錢

御注文は電話三〇五番へ

出前迅速 藤

平町字二丁目

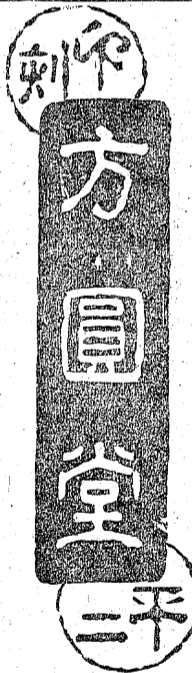
勉強で買ひ良い店は

平町一丁目

足袋和洋仕立物メリヤス類裁縫販賣の

丸屋號 齊藤商店

是非御用命を願ひます



豫て増築中の客室が落成致しました是非一日の御清遊を御待ち致します
 毎度恐入ますが飲食物は皆様の御氣に召した物を御持参を願ひます

平町城山

聚樂園

何時でも御随意入學に應じます

平町南町

平産護婦學校

校長 清野キヨ

御進物には

ヤマフルの商品券が一番

醬油味噌 たひら正宗 經節 其他 食料品



平町電話一〇番

市原醫院

平町田町(電話一四四番)
 内科、小兒科 市原卯太郎
 外科一般、婦人科 市原陸郎
 外科、梅毒、淋毒 市原三三男
 入院隨時

良品廉賣に勝る商略なし

磐城平町五丁目

磐城セメント株式會社特約代理店

和洋銅鐵 釜屋商店

電話 九番 一三九番 振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷はの生命なり